

戦評用紙

平成 30 年度

北河内地区 秋季大会

30年 11月 10日 時刻9:30

女子 【準決勝】

枚方

33

3-11
10-11
8-4
12-7
0-7

40

長尾西

第1PD

白の枚方は④⑤⑥⑦⑧、赤の長尾西は④⑤⑥⑦⑧でスタート。

枚方はインサイドを使って攻めたいところだが、長尾西の粘り強いきっちりしたディフェンスで、なかなかボールが入らない。長尾西は小さい身長ながら、外から果敢に攻め、⑥④が力強いステップで得点につなげていく。長尾西は、リバウンドにも必ず絡んでいき、1PDは長尾西がリードで終了。

第2PD

長尾西のディフェンスはプレッシャーが強く、きっちりローテーションしてゴールを守る。

しかしながら枚方は、慌てることなく、⑦がハイポスト、0度からのミドルシュートをおちついて二本連続決める。長尾西は⑥の外からの1対1、リバウンドから外へのあわせのパス、そこから1対1で得点を重ねていく。両チームとも、強気の攻めで、好展開のゲーム運びとなる。

第3PD

長尾西はオールコートマンツールのプレッシャーを強め、勝負に出ようとするが、枚方は

落ち着いて攻め、⑧のハイポストからの1対1、④のカットインなどで点を重ねていく。またディフェンスのプレッシャーを強め、相手のミスもあり、さらにリズムをつかむ。⑧のインサイドの1対1や⑩の強いリバウンドなどで、3PDは枚方が優勢なゲーム展開となる。

第4PD

4PDはスタートしてすぐに長尾西⑥の3Pが決まり、長尾西がリズムをつかんでいく

ように思われたが、枚方もディフェンスで粘る。枚方は⑧のインサイドで粘り強い1対1で得点し、⑤も外からリズムよくシュートを決める。長尾西は落ち着いてオフェンスし、アウトサイドのスクリーンから逆サイドへの裏パスがタイミングよく通り、ナイスプレーで得点、お互いに一歩も譲らないゲーム展開となり、延長へ。

第5PD

両チーム、ディフェンスのプレッシャーを強め、オールコートマンツーマンで守る。

そのような中で、長尾西の④の外からの1対1、⑥の3Pが立て続けに決まり、リズムをつかむ。

枚方も必死にディフェンスをし、インサイドで⑦が攻めるが、得点にむすびつかない。最後は長尾西④の

外からの1対1が決まりゲームセット。最後までどちらに転ぶかわからない好ゲームとなった。

(戦評／門真はすはな中：孫工)

戦評用紙

平成 30 年度

北河内地区 秋季大会

30年 11月 10日 時刻9:30

女子 【準決勝】

枚方四	72	$\left[\begin{array}{r} 30-6 \\ 10-6 \\ 9-16 \\ 23-3 \end{array} \right]$	31	梶
-----	----	--	----	---

第1PD	枚方四④⑤⑥⑦⑧でスタート。梶④⑤⑥⑦⑧でスタート。
枚方四⑧のスティールから④のシュートで先制。梶も④のドライブからシュートを狙っていく。しかし、枚方四の厳しいディフェンスに止められる。枚方四の④⑦⑧のドライブや、⑤のポストプレイでどんどん加点していった。	
第2PD	枚方⑤⑤⑥⑦⑧、梶④⑤⑥⑧⑨。枚方④の3Pや⑥⑦⑧の激しいディフェンスからの速攻で加点していく。梶も⑥のアウトサイドシュートで応戦。枚方④⑫⑮⑯を5分に投入、4分に⑪⑬を投入する。⑫⑮のドライブで攻め続ける。梶も④⑥のシュートで応戦していく。

第3PD	枚方四④⑤⑥⑦⑧、梶④⑤⑥⑦⑧。開始、梶は⑦のドライブで得点。枚方四も⑦のドライブからキックアウトし、④のアウトサイドで得点を狙う。その後も、枚方四④⑥⑧のドライブで加点。厳しいディフェンスに梶は④⑦のドライブで応戦、6分には⑪を投入し、④⑦のダブルチームでスティールを狙う。枚方四は5分に⑨⑪⑫⑮⑯を投入、⑯のドライブで加点。
------	--

第4PD	枚方四④⑤⑥⑦⑧、梶④⑤⑥⑦⑧。枚方四④⑦のドライブで加点、激しいディフェンスでダブルチームを狙い、スティールを連発する。5分には⑨⑫⑮⑯⑰を投入し、⑯のアウトサイドシュートや⑫のドライブで得点を重ねた。梶もパスでボールをつなぎ、⑥④⑧ドライブで攻めていく。枚方四は、⑨⑫⑮⑯⑰を投入し、⑨のドライブで攻めていき、得点を重ねた。
(戦評)	

戦評用紙

平成 30 年度

北河内地区 秋季大会

30年 11月 10日 時刻11:10

男子 【準決勝】

蹉蛇

43

8-15
10-15
14-10
11- 8

48

寝屋川三

第1PD

白の蹉蛇④⑤⑥⑦⑧、青の寝屋川三④⑤⑥⑦⑩でスタート。

慎重にオフェンスを組み立てる蹉蛇に対し、寝屋川三は積極的に攻める。寝屋川三は⑦にボールを集め、3P、1対1で得点を重ねる。蹉蛇は⑤のドライブ、3Pで応戦するが、寝屋川三が徐々にリードを広げる。8-15で1PDを終了。

第2PD

蹉蛇④⑤⑥⑦⑩、寝屋川三④⑤⑥⑦⑩でスタート。

開始早々、寝屋川三は⑦のドライブ、④のリバウンドショットで得点。蹉蛇は⑤を中心に攻め、シュートチャンスを作るが、リングに嫌われる。一方、寝屋川三は⑦、④の1対1で確実に得点を重ねる。18-30、寝屋川三のリードで前半を終える。

第3PD

蹉蛇④⑤⑥⑦⑧、寝屋川三④⑤⑥⑦⑩でスタート。寝屋川三は⑦を中心に攻め、④の

1対1等で得点していく。蹉蛇は⑤が合わせから得点を続けてインサイドプレーで点を決めると、流れを引き寄せる。32-40と、点差1ケタになり、4PDへ。

第4PD

蹉蛇④⑤⑥⑦⑧、寝屋川三④⑤⑥⑦⑩でスタート。

蹉蛇はセットプレーで⑧が得点すると、さらに勢いに乗る。対し、寝屋川三も辛抱強く守っていく。残り2分を切ったところで、蹉蛇⑤がインサイドプレーを決め、3点差。しかし、寝屋川三は最後まで冷静に守り切り、寝屋川三の勝利となった。最終スコアは43-48。

(戦評/四条瞬中:太田)

戦評用紙

平成 30 年度

北河内地区 秋季大会

30年 11月 10日 時刻11:10

男子 【準決勝】

寝屋川五	78	{	22-17 14-23 21-22 21-15	}	77	寝屋川八
------	----	---	----------------------------------	---	----	------

第1PD

白の寝屋川五④⑤⑦⑧⑨、黒の寝屋川八④⑤⑥⑦⑩でスタート。

序盤から寝屋川五⑦のドライブや⑤のリング下のシュートが決まる。また、続けて寝屋川五⑤のインサイドから外へパスが飛び、3Pで加点し、寝屋川五は多彩なオフェンスをみせる。寝屋川八はスピードのあるアーリーオフェンスで対抗し、第1PDは22-17で寝屋川五のリード。

第2PD

寝屋川五④⑤⑦⑧⑨、寝屋川八④⑤⑦⑧⑩でスタート。

高さで勝る寝屋川八がオフェンスリバウンドを押し込み、ディフェンスリバウンドからの速いオフェンスは⑤のコントロールが冴え、得点を伸ばす。寝屋川五は⑦の1対1を中心に得点していくが、第2PDは、寝屋川八が逆転し、36-40。

第3PD

寝屋川五④⑤⑦⑧⑨、寝屋川八④⑤⑥⑦⑨でスタート。

第2PDに引き続き、寝屋川八のゲームメイクから得点し、寝屋川五は⑦のオフェンス中心に得点していく。第3PD後半、寝屋川五⑨の3P、ドライブインが決まるが、寝屋川八のインサイドプレーでファウルを誘い、流れをつかませず。第3PD57-62で寝屋川八が5点リード。

第4PD

寝屋川五④⑤⑦⑧⑨、寝屋川八④⑤⑥⑦⑩でスタート。

ここまでハーフマンツーマンだった寝屋川五が、オールコートからタイトなディフェンスをしかけ、開始30秒で5点差をつめる。寝屋川八も④のオフェンスで対応するが、残り5分、寝屋川五のドライブで逆転。さらに寝屋川五⑤のドライブもきまり、寝屋川八たまたまタイムアウト。その後、寝屋川八が再度、逆転するも残り29秒1点差から寝屋川五のインサイドのプレーが決まり、寝屋川五の逆転。寝屋川八もあきらめずシュートを打つが、決まらない。ラスト6秒の寝屋川五のスローインは、⑦がコントロールし78-77で寝屋川五の勝利。

(戦評/四條畷学園中:山本)

戦評用紙

平成 30 年度

北河内地区 秋季大会

30年 11月 10日 時刻12:50

女子 【3位決定戦】

梶 46 [17-10
10-12
9-10
10-16] 48 枚方

第1PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑤⑥⑦⑧。

黒⑦の1対1でゴール下まで攻め込み先制。

対する白も1対1を仕掛けるが、合わせが決まらず、得点にならない。少しずつディフェンスの粘りで流れを引き寄せ、白④の3P。速攻で点差をあげる黒もオフェンスリバウンドに飛び込んでシュートチャンスを増やすが、17-10梶リードで終了。

第2PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑤⑥⑦⑧。

黒はオールコートでディフェンスを粘り、スティールから速い展開でシュートに行くが、決まらない。黒⑩のオフェンスリバウンドやポストプレーで点差を縮める。白は⑦の1対1と3Pが決まるが、黒のディフェンスが厳しくなり、ボール運びに苦しむ。27-22梶のリードで前半終了。

第3PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑤⑥⑦⑧。

黒のディフェンスが激しくなり、白は焦りからミスが続く。オールコートで守る黒のディフェンスが破れず得点がとまる。対する黒は、⑦⑩⑥らのスティールから速攻で逆転。それでも白④は落ち着いて声を掛け続け、⑥⑦で得点。36-32梶リードで3PDを終了。

第4PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑤⑥⑦⑧。

白⑦の3Pでスタート、白のディフェンスは

ボールを持たせまいと守るが、黒⑦のゴール下でのステップに守り切れず、得点を許す。体力的にも厳しさが見られるが、積極的にスティールを狙い、白も速攻と、⑥の1対1でリードを守る。しかし、黒⑧のローポスト面取りに対して守れず、ポストプレーで同点。そのまま黒のオールコートディフェンスが白のパスミスにつながり逆転。46-48で枚方勝利。

(戦評／四條畷西中：吉田)

戦評用紙

平成 30 年度

北河内地区 秋季大会

30年 11月 10日 時刻12:50

女子 【決勝】

枚方四

59

[18- 5
11- 3
16- 2
14-10]

20

長尾西

第1PD

白④⑤⑥⑦⑧、赤④⑤⑥⑦⑧。両チームともに⑥の3Pシュートをしずめる立ち上がり。

白はオールコート、赤はハーフコートでディフェンスをする。白は④がリバウンドシュート、ミドルシュートにドライブと多彩な攻撃をみせる。加えてオールコートディフェンスのプレッシャーも強く、赤はボールコントロールを失う。18-5で白がリード。

第2PD

白④⑤⑥⑦⑧、赤④⑤⑥⑦⑧でスタート。白は外れても⑤⑦が果敢にオフェンスリバウンド

ドを取り続ける。赤は④⑤⑥が1対1を仕掛けるも、白のチームディフェンスに止められてしまう。白はさらに⑥⑧のドライブなどでも加点。赤も粘り強いディフェンスで24秒オーバータイムを奪う。赤④の3Pが決まるが、なかなかオフェンスが実らず29-8で後半へ。

第3PD

白④⑤⑥⑦⑧、赤④⑤⑥⑦⑧で開始。白は連続3Pシュートで攻撃の手を緩めない。

赤は④が相手の不用意なパスをカットし、そのまま速攻を決める。加点後、ローテーションディフェンスを仕掛けて波に乗りたいが、白のバックコート陣がそれを許さない。赤は白⑤のポストアップをチームディフェンスで防ぐも、点がとれず。逆に、白はインサイドアウトのシュートで得点していく。45-10で変わらず白リード。

第4PD

白④⑤⑥⑦⑧、赤④⑤⑥⑦⑧で最終ピリオドがスタート。赤④が奮起し、良いシュートや

1on1を仕掛け、ファウルをもらい、フリースローで加点。白は後半から起用され、ようやく硬さが取れてきた⑮のリバウンドシュートや、⑯の3Pシュートなどで点差を広げる。赤は1試合目が接戦だったこともあり、追い上げるには厳しい展開に。最後は59-20で枚方四中が新人大会の優勝を飾った。

(戦評／中木田中：岡本)

戦評用紙

平成 30 年度

北河内地区 秋季大会

30年 11月 10日 時刻14:30

男子 【3位決定戦】

蹉蛇

54

9-11
9-16
20-17
16-17

61

寝屋川八

第1PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑤⑥⑦⑩。両校ともに序盤から激しいディフェンスで守り合う。

均衡を破ったのは黒④のドライブでの先制点。黒は⑤を中心とした速攻や④のドライブで得点を重ねる。

対する白は④⑦の速攻や⑩のポストプレーで得点し、9-11の黒リードで1PD終了。

第2PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑤⑥⑦⑩。白は⑥⑧がオフェンスリバウンドによく絡むもシュートは

リングに嫌われる。黒もハーフコートバスケットでは、白のディフェンスに苦しむものの、黒④のスティールから

の速攻で徐々に点差を広げる。しかし、白も2度のタイムアウトでオフェンスを修正し、白⑧⑩のポストプレー

で連続得点。前半を18-27の黒9点リードで折り返す。

第3PD

白④⑤⑥⑦⑩、黒④⑤⑥⑧⑩。スタートから白は速攻、ドライブ、ポストプレーなど多彩な

攻めで得点を重ねるも、黒④の得点を抑えることができず、なかなか点差が縮まらない。それでも白は

⑦の連続得点で粘り強く食らいつき、38-44 黒の6点リードで第3PDを終了。

第4PD

白④⑤⑥⑩⑬、黒④⑤⑥⑧⑩。一戦目の疲れもあってか両校ともにミスが続き、我慢の

時間帯。そんな中、白は⑦のドライブ、⑩のリバウンドシュートなどで少しずつ点差を縮め、残り2分40秒

でついに同点とする。しかし、黒④もすぐさま3Pでリードすると黒⑤のバスケットカウントで突き放す。白も

⑥の速攻など、最後まで攻め続けたが、1歩及ばず、54-61で黒が勝利した。両校ともにディフェンスと

リバウンドで競り続けた好ゲームであった。

(戦評/寝屋川十中:鳩間)

戦評用紙

平成 30 年度

北河内地区 秋季大会

30年 11月 10日 時刻14:30

男子 【決勝】

寝屋川三

77

[19-12
18-14
22-20
18-15]

61

寝屋川五

第1PD

白④⑤⑥⑦⑩、黒④⑤⑦⑧⑨でスタート。白④のリバウンドシュートから試合が始まった。

白は④⑦のドライブや、3Pをしっかり決め、流れをつかむ。黒も⑦を中心に攻めるが、なかなかシュートが決まらない。黒⑦のドライブでカウント1ショットをもらうが、その後白⑦もカウント1ショットをもらう。19-12で1PD終了。

第2PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑤⑦⑧⑨でスタート。

白は、リバウンドシュートや、この試合3本目となる⑦の3Pシュートで差を広げる。黒は速攻や⑨の3Pで応戦するが、その後も白⑦に2本の3Pを決められる。2PD序盤に開いた差は縮まらず、37-26で2PD終了。

第3PD

白④⑤⑥⑦⑩、黒④⑤⑦⑧⑨でスタート。白はバランス良く、ドライブやリバウンドシュート

などで得点を重ねる。黒は⑦のリバウンドからの速攻、ドライブ中心に攻める。黒⑦⑨のドライブ、カウント1ショットが決まり、白がタイムアウトを取る。その後、黒のオールコートディフェンスに焦り、白はターンオーバーを繰り返す。59-46で3PD終了。

第4PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑦⑧⑨⑩でスタート。両チームオールコートディフェンス。黒は白⑦

の3Pを警戒し、タイトにつく。白⑦は逆手にとり、ドライブ→白⑩へのあわせが決まる。黒は⑦を中心に攻めるが、オールコートディフェンスの末、チームファウル5となる。77-61で試合終了。

(戦評/交野二中:吉岡)